

円形の待合室に木のベンチが置かれ、天井から差し込む太陽の光が明るく、雲間をすり抜けてくる。

前橋工科大学の石川恒夫准教授が建てた高崎市内の小児科病院は通常の病院のイメージとはかけ離れている。スタッフルームや処置室などあらゆる場所に木の素材を多用し、照明には布をかけた柔らかな光を出している。

「気分がめいる場所こそ、癒やされる空間づくりが必要」と石川氏は語る。画一化された建物ではなく、人がストレスを感じにくい点を心がけて施設を建設した。

二〇〇四年に大学発ベンチャー、ビオ・ハウス・ジャパン（前橋市）を設立。「教育・研究・実務は表裏一体」との考えから、学問的蓄積を社会で生かすために住宅事業に乗り出した。これまで小児科病院のほか、住宅や別荘など群馬県内を

研究最前線 北関東

前橋工科大

石川 恒夫 研究室



〈研究室概要〉

- ▽所在地 群馬県前橋市上佐馬町 460-1
- ▽所属 前橋工科大学大学院工学研究科
- ▽連絡先 027-265-7345
- ▽研究テーマ 住まいと健康との関係に根ざした住宅建築

人にやさしい建物推進

中心に十棟ほど手掛け、再来年には幼稚園も建設する予定だ。

「現代の建物は人間に「やさしい」との問題意識が背景にある。接着剤に化学物質を使ったり、薄い専門分野を追求する。バイオロキー（建築生物学）というなじみ

の薄いつまみと人の心、体の健康との関係を研究する。バイオ・ハウス・ジャパンは、建物に群馬県下田町から仕入れた木素材を多用する。塗料は最小限にとどめて木の風合いを残す。壁材には断熱材を組み入れ、通常より五秒前後厚い二十センチにすることで外気温の影響を軽減する。大きな窓からは二階まで光が差し込み、日中は照明をつける必要がない。屋根には植物を植えて緑化にも取り組む。

「価格は一般的な住宅に比べて三割前後高い三・三平方メートルあたり六十万円こなすのが特徴だ。住まいの断熱効果など

木材多用、省エネにも力

による電力使用量削減などで、十年単位で見れば割安になるという。健康への関心が高い顧客や小さな子どもがいる家庭などに需要がある。

建てた後には室内温度や電力使用量などをデータ測定して省エネ効果などを見極める。研究の資料として活用するほか、住んでいる人にも提供して日々の生活の参考にしてもらう。

事業には学部や大学院修士を含めて十人前後の学生が参加する。ペンキを塗り、顧客とやりとりする中で「家が完成するまでに豊富な社会経験が得られる」（石川氏）。

住宅を通じ、教育・研究・実務のそれぞれで利益を追求している。